

臨床に役立つ雑誌⑤

— 呼吸器科 —

呼吸器疾患の臨床に役立つ雑誌

中原 保 治

1. はじめに

「呼吸器疾患の臨床に役立つ雑誌」という課題を与えられたが、呼吸器疾患には感染性、腫瘍、アレルギー性疾患、呼吸機能障害その他多くの分野の疾患があり、またその診療に携わるスタッフも内科、外科、放射線科、リハビリなど多方面にわたる。したがってその「臨床に役立つ雑誌」を網羅するのは至難の業である。そこで筆者は日本胸部疾患学会雑誌掲載の論文に引用された文献を調べることによりその責に代えさせていただこうと考えた。日本胸部疾患学会を選択した理由は、本邦の呼吸器疾患関係の学会の中で一番多方面の課題を内科系、外科系ともに広く扱う臨床的な学会と考えたからである。

2. 対象および方法

日本胸部疾患学会雑誌の30巻6号(1992年6月)から31巻2号(1993年2月)に掲載された全論文216編を対象とし、それらに引用された文献の掲載雑誌名、掲載年などにつき検討した。なお、単行書の引用および投稿中の引用文献は除外した。対象の論文216編の内訳は表1の通りである。これらの論文の大多数は1991年半ばから1992年末までの間に受付されている。

表1 対象論文の内訳

	症例報告	原著	その他	計
腫瘍	34	16	9	59
間質性肺炎	17	6	2	25
喘息	6	13	5	24
感染	13	8	0	21
肺循環	13	4	0	17
呼吸不全	2	8	5	15
その他	25	27	3	55
計	110	82	24	216

3. 結果

1) 引用文献数とその内訳

対象とした論文に引用された文献は総数2957編で、うち洋雑誌掲載論文2028編(68.6%)、和雑誌掲載929編(31.4%)であった(図1)。

2) 引用雑誌(引用文献の掲載雑誌)

引用された雑誌のタイトル数は604誌と多く、このうち洋雑誌は428誌、和雑誌は176誌で洋雑誌が7割を占めた。それぞれの雑誌について引用された件数を検討すると、引用された件数が1件のみの雑誌が322誌と半数以上を占めるのに対し、20件以上引用された雑誌は28誌(4.6%)、50件以上では10誌(1.5%)にすぎない(図2)。すなわち頻用される雑誌は比較的少数であることが

なかはら やすはる：国立姫路病院
呼吸器科医長

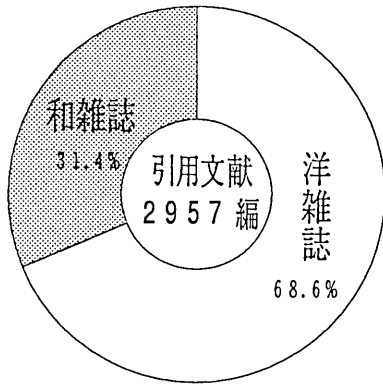


図1 引用文献件数内訳

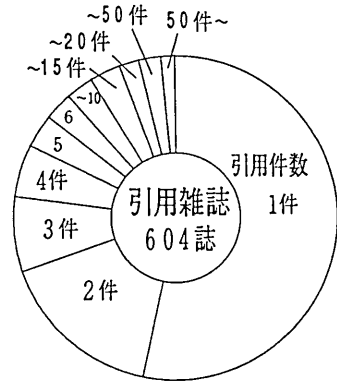


図2 引用雑誌タイトル数-引用件数別-

表2 引用雑誌名-引用件数順-

順位	誌名	引用件数
1	Am Rev Respir Dis	213
2	日胸疾患会誌	194
3	Chest	132
4	日胸臨	73
5	N Engl J Med	67
6	J Appl Physiol	64
7	Thorax	63
8	Cancer	61
9	呼吸	53
10	Radiology	52
11	気管支学	41
11	Ann Intern Med	41
13	Am J Med	40
13	J Clin Invest	40
15	肺癌	38
16	Lancet	35
17	AJR Am J Roentgenol	34
18	J Thorac Cardiovasc Surg	30
19	アレルギー	29
20	J Allergy Clin Immunol	27
21	日内会誌	23
21	BMJ	23
23	呼吸と循環	21
24	胸部外科	20
24	Arch Intern Med	20
24	Cancer Res	20
24	J Immunol	20
24	Proc Natl Acad Sci U S A	20
29	日胸外会誌	19
29	Medicine(Baltimore)	19
31	Am J Pathol	18
31	J Biol Chem	18
33	J Clin Oncol	17
34	最新医	15
34	臨放録	15
34	J Pediatr Surg	15
34	JAMA	15
34	Nature	15
39	癌の臨	14
39	Hum Pathol	14
41	日臨	13
41	Am J Physiol	13
41	Clin Sci	13
41	Science	13
45	結核	12
45	Blood	12
45	Circulation	12
45	Eur Respir J	12
45	Respiration	12
50	内科	11
50	Lab Invest	11
50	Resp Physiol	11

うかがわれる。表2に、これら雑誌名を引用件数の多いものから順に50位まで示した。洋雑誌では Am Rev Respir Disが、和雑誌では日胸疾患会誌が1位であるが、その他 N Engl J Med、Cancerなど呼吸器疾患の専門書以外の雑誌も上位を占めるものが多いことが分かる。

図3には引用頻度の高い洋・和雑誌各10誌について、それぞれ症例報告、臨床的原著、あるいは基礎的内容の論文に引用される割合を図示した。洋雑誌では J Appl Physiol や J Clin Invest が基礎的な論文への引用が多く、Am Rev Respir Dis、J Appl Physiolが症例報告よりむしろ原著に引用される頻度が多い傾向がみられた。和雑誌は主に臨床的論文に引用されることが多く、特に症例報告への引用が目立つが、「アレルギー」と「呼吸と循環」は比較的原著に引用される割合が高い。

3) 引用文献の年度別分布

図4は引用文献の年度別分布を洋雑誌、和雑誌に分け示したものである。全体に洋雑誌は和雑誌に比べ古い文献も利用される率が高く、最近5年間の雑誌で、和雑誌の場合全体の46%を占めるのに対し、洋雑誌では25%を占めるにすぎない。全体の6割をカバーするためには和雑誌の場合最近7年間(1986年以降)の、洋雑誌の場合10年間(1983年以降)の雑誌が必要で、8割をカバーするためには和雑誌10年間、洋雑誌19年間の雑誌が必要である。

図5に原著・シンポジウム・班会議報告におけ

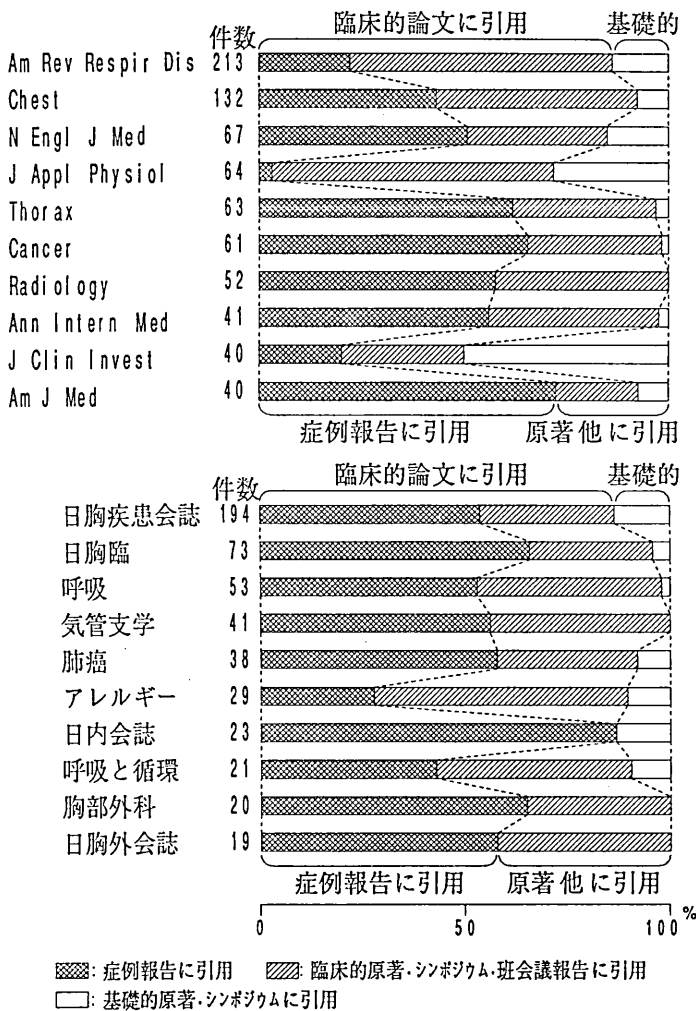


図3 引用件数上位10位までの和・洋雑誌
—引用元の対象論文種類別構成—

る引用文献を和・洋雑誌それぞれに年度別分布を示した。図6は症例報告について同様に図示したものである。原著などの場合、より新しい文献が引用されているのに対し、症例報告ではかなり古い文献も高頻度に引用されており、特に洋雑誌でその傾向が強い。

考 察

病院図書室は臨床勤務医にとって必要な情報を

すばやく手に入れる上で、一番重要な働きを期待される場である。一方、大学図書館などに比較すると予算、設備、スタッフなど多くの面で格段にきびしい環境にある。しかしそれだけに受け入れ雑誌の選択、所蔵、あるいは相互貸借などをいかに的確に行うか関係職員の手腕が大いにものをいう部門であろう。

今回検討の対象とした論文は学会雑誌に掲載されたものであり、当然、最近注目されているテーマを扱ったものが多く、実際の臨床で遭遇する疾患の頻度からかなりずれているのは事実である。したがってこの結果がすべて病院図書の需要と一致しているとはいえないが、最新情報を欲している呼吸器臨床医の最大公約数的な傾向は読み取れるかと考える。

近畿病院図書室協議会に提出された各図書室の受け入れ雑誌リストを検討すると、表2の上位に挙げられた雑誌のうち、洋書では J Appl Physiol, Thorax が、和書では、日胸疾患誌、呼吸、気管支学、肺癌などの受け入れ施設が比較的少ない印象がある。

また雑誌の適切な所蔵期間について、植手¹⁾は図書室における雑誌の発行年度別利用度調査から和雑誌と洋雑誌とで差があることを指摘しているが今回の検討でも両者別々に考慮する必要があると思われた。また特に症例報告では和・洋雑誌で引用年度に大きな差が見られたのは興味もたれる。

最後に雑誌の特徴などについてそれぞれの編集室にお尋ねし御回答を頂いた中からいくつか紹介し本稿の締めくくりとさせていただきます。

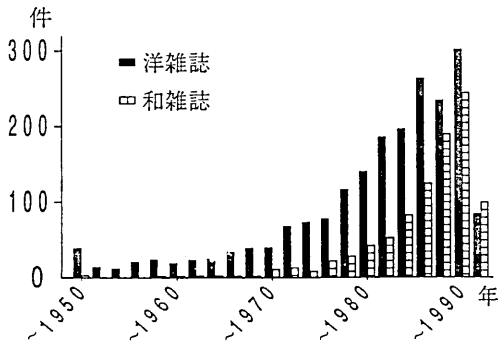


図4 引用文献の年度別分布

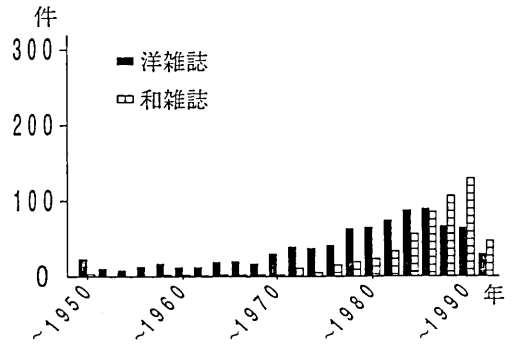


図6 症例報告に引用された文献の年度別分布

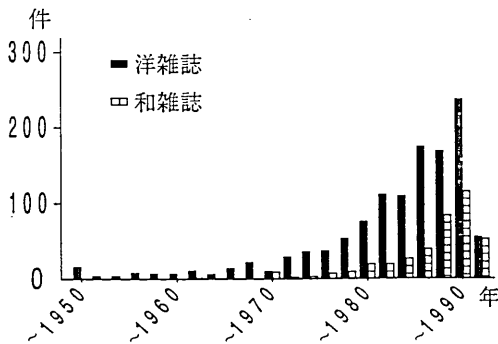


図5 原著・シンポジウム・班会議記録に引用された文献の年度別分布

Am Rev Respir Dis : 1917年発刊、American Review of Tuberculosis から2回改題。来年さらに改題予定。

Chest : 58年の歴史の、American college of Chest Physiciansの機関誌。呼吸・循環・救急医療が対象。

N Engl J Med : 1812年の創刊以来、数回改題されたが、医学定期刊行物の中で最も歴史が古い。

J Appl Physiol : 呼吸、循環、運動、代謝などの生理学の雑誌であるが呼吸器系の記事が多い。

Thorax : British Thoracic Society の機関誌で、呼吸器領域の臨床、研究的論文を扱う。

J Thorac Cardiovasc Surg : 胸部外科の雑誌としてAnn Thoracic Surg とともに重要。

日胸臨 : 1940年「日本臨床結核」として発刊、1960年改題し呼吸器系臨床医向けのテーマを幅広

く扱う。

呼吸 : 1982年創刊。呼吸器病の月刊専門誌。新しい重要テーマを総説、座談会、解説、講座などの形式で詳述。

気管支学 : 日本気管支学会の機関誌。1979年創刊。特に気管支鏡所見に重点を置きカラー写真も多い。

肺癌 : 日本肺癌学会の機関誌。1960年日本肺癌研究会記事に始まる。1疾患を対象とするユニークな学会誌。

アレルギー : 日本アレルギー学会の機関誌。1952年刊行。広くアレルギーを扱い、種々の診療科、研究分野が関与。

呼吸と循環 : 1953年創刊。呼吸・循環の病態生理学を中心とした新鮮な情報の紹介、普及が基本方針。

日臨 : 1943年創刊。1つの課題を専門領域ごとに徹底的に編集し、各領域の専門性と網羅性を追求。

結核 : 日本結核病学会の機関誌。1923年発刊。結核、非定型抗酸菌の基礎、臨床、免疫学など奥深い内容。

《参考文献》

- 1) 植手鉄男 : 利用統計からみた図書室の評価と新たな企画 ; 北野病院1980年度資料の分析から、病院図書室、5 : 27-32、1984